

# 健康起因事故の事例と再発防止策



調査部研究第三課 研究員  
母ヶ野 賢一

名称：公益財団法人交通事故総合分析センター

通称：ITARDA（イタルダ）

**I**nstitute for **T**raffic **A**ccident **R**esearch and **D**ata  
**A**nalysis

設立：平成4年3月

目的：交通事故と人間、道路交通環境及び車両に関する総合的な調査研究を通じて、交通事故の防止と交通事故による被害の軽減を図ることにより、安全、円滑かつ秩序ある交通社会の実現に寄与し、もって公共の福祉の増進に資すること

## 事業用自動車の重大事故に関する調査分析

- ・事業用自動車の事故は、社会的影響が大きく、自動車運送事業者の組織的・構造的問題に起因する可能性がある
- ・高度かつ複合的な調査・分析により事故原因の究明を行い、客観性・実効性のある再発防止策の提言が必要
- ・国土省自動車局（当時）からの委託によりITARDAが事務局となり平成26年6月に「事業用自動車事故調査委員会」設置

### 調査対象事故

#### 特別重要調査対象事故

事業用自動車事故調査委員会事務局である**交通事故総合分析センター**が調査・分析を行う

：選定基準：

- ①社会的影響が大きい
- ②事故原因が事業者の組織的・構造的問題に起因する可能性がある
- ③早期に有効な再発防止策が必要

#### 重要調査対象事故

運送事業者を管轄する**地方運輸局**が調査を行った後、交通事故総合分析センターが分析を行う

：選定基準：

特別重要調査対象事故以外のもの並びに

- ①事故原因が事業者の組織的・構造的問題に起因する可能性がある
- ②同種事故の多発が予想される
- ③早期に有効な再発防止策が必要等

※自然災害や老朽化道路等に起因する事故、車両欠陥により生じた事故は調査対象外

## 事業用自動車の重大事故に関する調査分析

### 事業用自動車事故調査委員会

#### 【事業用自動車事故調査委員会のメンバー】

##### ・委員

人間工学、労働科学、健康医学、自動車工学、道路工学、交通工学等の分野に知識を有する学識経験者

##### ・事務局

交通事故総合分析センター

#### 【委員会と報告書】

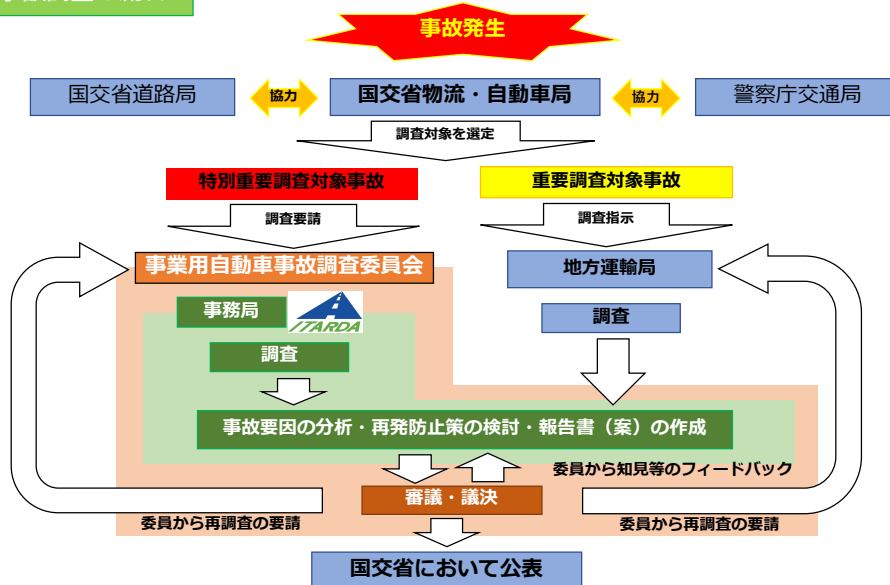
「事業用自動車事故調査報告書」の案が委員会で審議され、議決されたものが、国土交通省から公表される。委員会は、原則年4回開催される。



委員会の様子

## 事業用自動車の重大事故に関する調査分析

### 事故調査の流れ



## 事業用自動車の重大事故に関する調査分析

### 報告書の構成

#### 1 事故の概要

事故の発生  
日時、場所、  
運行状態、  
負傷の状況  
等

#### 2 事実情報

事故の関係  
者からの口  
述や関係資  
料等から得  
られた情報

#### (実証実験)

事実情報だ  
けでは不十  
分な場合  
に行うことが  
ある

#### 3 分析

事実情報及  
び実験結果  
から考察し  
た結果

#### 4 原因

分析結果か  
ら導いた事  
故原因

#### 5 再発防止策

事業者、運  
転者、国、  
関係団体等  
に提言する  
再発防止策

事業用自動車事故調査委員会では、これまでに**66件**の重大事故について、事故の原因や再発防止対策をとりまとめた事業用自動車事故調査報告書を公表。  
しかし、**重大事故が引き続き発生**している状況。



軽井沢スキーバス事故  
平成28年1月15日 長野県北佐久郡軽井沢町  
平成29年7月5日公表



大型トラックの踏切事故  
令和元年9月5日 神奈川県横浜市区  
令和3年12月24日公表

#### 直近の公表事案



大型トラックの追突事故  
令和5年5月16日 宮城県栗原市  
令和7年6月27日公表



大型乗合バスの追突事故  
令和4年12月4日 浜松市浜北町  
令和7年6月27日公表



タクシーの追突事故  
令和4年12月2日 大阪市淀川区  
令和7年9月5日公表

#### 事業用自動車事故調査委員会で公表した事故のパターン

- 【パターンⅠ】 過労運転による居眠り事故…16件
- 【パターンⅡ】 体調急変や体調不良による事故…11件
- 【パターンⅢ】 前方不注意（脇見運転）による事故…15件
- 【パターンⅣ】 速度超過状態で走行したことによる横転事故…4件
- 【パターンⅤ】 周囲の状況に合わせた運転操作が不適切であった事故…16件
- 【その他】 飲酒運転による事故…2件  
逆走事故…1件  
車両故障（整備不良）による事故…1件

## 本講演の目的

健康起因が関係する事故事例について、原因や再発防止策についてご紹介し、健康起因が関係する重大事故の防止を図る。

### 事故事例① 大型トラックの追突事故（愛知県岡崎市）

平成30年2月15日7時45分頃、愛知県岡崎市の国道において、大型トラックが自動車部品約3,000kgを積載して走行中、交差点手前において赤信号で停止していた車列の最後尾の普通トラックに追突し、普通乗用車や軽乗用車合わせて6台の車両が関係する多重衝突事故が発生した。

この事故により、軽自動車の運転者が死亡、普通トラックの運転者が重傷、その他普通乗用車の運転者2名及び軽乗用車の同乗者の合計3名が軽傷を負った。



衝突した大型トラック



追突された普通トラック



追突された普通乗用車①



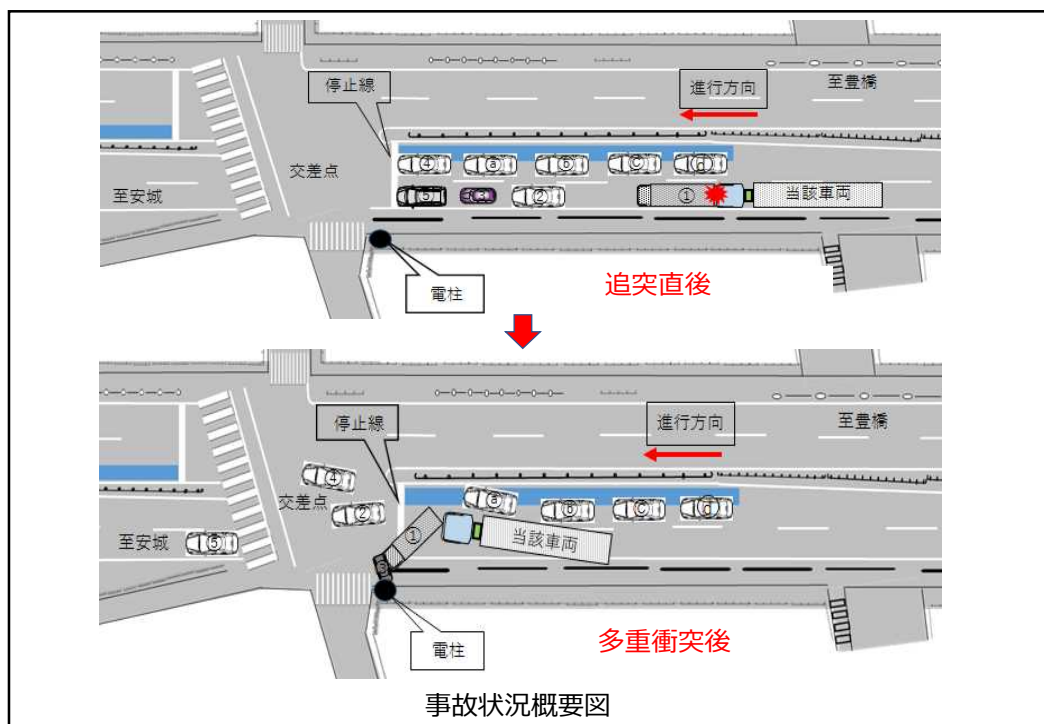
追突された軽乗用車



追突された普通乗用車②



追突された普通乗用車③



## 原因

### 前日から続く体調不良を感じたまま運転を継続

事故は、大型トラックの運転者が、前日から続く体調不良（発熱）を感じたまま運転を継続し、信号待ちで停止している車列に気付くのが遅れ、朦朧とした意識のなか身体が入らずブレーキ操作やハンドル操作をすることなくこれらの車列に追突したことで発生した。

## 原因

### 運転者（推定）

当該運転者は、事故前日から体の痛みを伴う発熱、腹痛や下痢などの体調不良を感じており、事故当日も熱っぽさや下痢を伴う腹痛、身体のだるさや筋肉痛のような痛みが継続していたが、午後から病院に行けると思い運行管理者へ自身の体調を報告することなく運行を開始し、運行中体調が悪化し意識が朦朧としていたにもかかわらず、約7km先に自社の指定給油所があったため、**無理をして運行を継続**した

体調が悪化していたものの、給油所までの30分ほどの運転はできるだろうという自己判断

### 事業者・運行管理者等

- ・ 早朝（4時より前）出庫者への**始業点呼未実施**
- ・ 始業点呼未実施による**運転者の体調未確認**
- ・ 体調不良時の対応処置に関して運転者への教育が不適切
- ・ 雇入れ時の健康診断未実施



事故地点から休憩しようとしたガソリンスタンドまでの位置







## 事故事例② タクシーの衝突事故（東京都渋谷区）

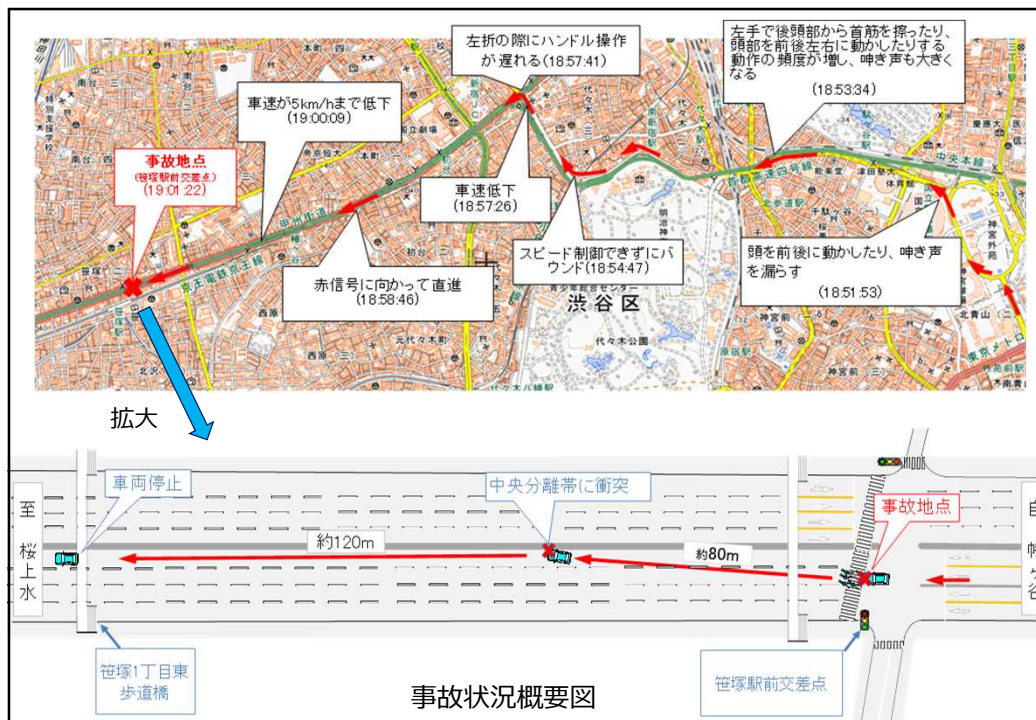
令和3年1月4日19時01分頃、東京都渋谷区の国道において、タクシーが後部座席に乗客1名を乗せて運行中、進路前方の赤信号の交差点に進入し、横断歩道を青信号に従い横断していた歩行者を次々にはねた。

この事故により、歩行者のうち1名が死亡し4名が重傷、1名が軽傷を負った。

タクシーの運転者は意識が朦朧とした状態で病院に搬送され、「くも膜下出血」と診断された。その後別の病院に転院したものの、最後まで意識を回復することなく約3か月後に死亡した。



衝突したタクシー



## 原因

### 運行中、身体に異変を感じた後も運行を継続

事故は、タクシーの運転者が運行中にくも膜下出血を発症し、事故発生の約10分前から身体に異常をきたし、さらに、事故発生の約6分前からは安全な運転ができない状況になりつつも継続して運行しているうちに、しだいに意識が朦朧となり、事故地点の交差点において、赤信号にもかかわらず車速約55km/hで進入したため、青信号に従い横断していた歩行者と衝突したことにより発生したものと推定される。

## 原因

### 運転者

当該運転者は、事故の約10分前には体調の異変を示す、後頭部や首筋をさすったり頭を前後に動かしたり呻き声をあげるなどしており、体調の異変は始まっていたにもかかわらず、**無理をして運行を継続**したことにより、さらに深刻な事態になった

身体に異常を感じつつも、乗客を乗せた状況であったため、運行を中止することよりも乗客を目的地に送り届けることを優先して、運行を継続するという**責任感**やベテラン運転者特有の心情があった可能性

### 事業者・運行管理者等

- ・健康起因事故の防止に係る**会社全体の関心の低さ**
- ・運行中に身体の異常を感じた場合における連絡方法等、運行中止を実行するための**具体的な運用手順等が未整備**
- ・運転者に対する指導・教育における、当該**教育の効果を高めるための工夫等の不足**
- ・**くも膜下出血の危険因子を抱えた運転者に対する健康管理が不適切**

## 再発防止策

### 指導教育関係

- ・実際の事態を想定した訓練や**グループミーティング**の実施
- ・運行中止に関する具体的な**手順の整備と運転者への周知徹底**

### 運行管理関係

- ・くも膜下出血等の危険因子を抱えた運転者について、**始業点呼時に血圧の状態や服薬の状況等の確認**

### 事業者関係

- ・輸送の安全に関する会社全体の雰囲気改善するため、日常の指導・教育を通じて、**事故防止のためには運行中止もやむを得ないことを周知徹底し、同意識を会社全体で共有すること。**
- ・**脳健診（脳ドック、脳MRI検診）**の積極的な受診勧奨

## 自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドライン

自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドライン（概要版）  
（抜粋）

### 自動車運送事業者における 脳血管疾患対策ガイドライン 【概要版】



運転中に **脳血管疾患** を発症すると・・・

意識障害、運動麻痺により  
事故回避措置が取れます。  
重大事故を引き起こす原因になりかねません！！

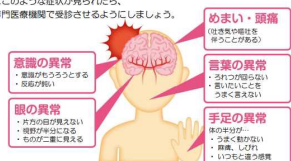


発症する前の脳血管の異常の『**早期発見・早期治療**』が重要で  
社内での **脳健診の活用** を検討しましょう

運転者が健康で安全に業務ができる職場環境にしましょう

#### どんな症状？

＜脳血管疾患の主な初期症状＞  
運転者にこのような症状が見られたら、  
すぐに専門医療機関で受診するようにしましょう。



#### どのようにして起きる？

＜脳の血管が詰まることによって起きるもの＞

##### 脳梗塞

脳の動脈が詰まることで血液が脳内に行き届かなくなり脳細胞が死に至る

＜脳の血管が破れることによって起きるもの＞

##### 脳出血

脳の血管が何らかの  
原因で破れて起こる

##### くも膜下出血

主に脳の表面にある  
太い動脈にまじりこぶ  
（脳動脈瘤）が破れる  
ことにより起こり、  
急死することもある

#### 原因と予防法は？

脳血管疾患の予防のため、事業者は、通常の健康診断等を通じて、運転者の健康状態や疾患に  
つながる**生活習慣の適切な把握、管理**に努めよう。

また、定期健康診断や人間ドックだけでは、**脳血管の異常を発見することは難しい**と言わ  
れます。**脳健診を受診**させることにより、早期発見に努めよう。

#### ＜脳血管疾患の主な原因＞



#### ＜脳血管疾患の予防法＞

健康診断	脳健診	生活習慣の改善	薬物の服用
血圧測定、血糖検査、 心電図検査で危険性を 把握	脳ドックや脳MRI検 診により、片側や危険 因子を早期に発見	禁煙、過度の飲酒を控 える、バランスの良い 食事、適度な運動、肥 満の予防	（危険因子の治癒） 高血圧、糖尿病、脂質異常な どが取り、生活習慣を改善し てもよくならない場合は、治 療を継続して服用

### 自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドラインの概要

事業用自動車の運転者の健康起因事故の防止の取組みとして、国土交通省は平成30年2月に**脳血管疾患対策のガイドライン**を公表し、事業者が行うべき対応を示している。  
(<https://www.mlit.go.jp/common/001222862.pdf>)

#### 運転中の交通事故との関連が特に深い疾患

- 脳内の血管が詰まることによって起こる「**脳梗塞**」
- 脳の血管が破れることによって起こる「**脳出血**」
- 主に脳の表面にある太い動脈に生じたコブ（脳動脈瘤）が破れることで引き起こされる「**クモ膜下出血**」
- 脳の血管が一時的に詰まって起こるもの（一過性虚血発作）⇒「**脳梗塞の前触れ**」

#### 脳疾患の発生原因

- ・ 脳出血は「高血圧症」
  - ・ 脳梗塞は「高血圧や糖尿病、脂質異常症、喫煙、過度な飲酒、肥満、不整脈（心房細動）」
- 生活習慣に起因**

これらに該当する運転者に対して、脳血管疾患の予防のためにも、治療や生活習慣の改善に努めるよう指導  
さらに、リスク要因となるような過重労働のないよう適切な労務管理を実施することも予防につながります

★無症候性の脳梗塞・脳出血については「**脳健診でのみ発見が可能**」  
**早期発見**が事故防止につながる。

### 事故事例③ 大型乗合バスの横転事故（名古屋市北区）

令和4年8月22日10時12分頃、名古屋市北区の高速道路において、乗客7名を乗せた大型乗合バスが本線第2車両通行帯から分岐する減速車線を走行中、左方に斜走して、減速車線と本線の間に設けられた分岐帯に衝突し、本線2車線を塞ぐ形で横転する事故が発生した。この事故に伴い、本線第2車両通行帯を走行していた小型乗用車が、大型乗合バスとの衝突を避けるためブレーキをかけ左方に斜走したが間に合わず、大型乗合バスの後面に衝突し、大型乗合バス及び小型乗用車が全焼した。

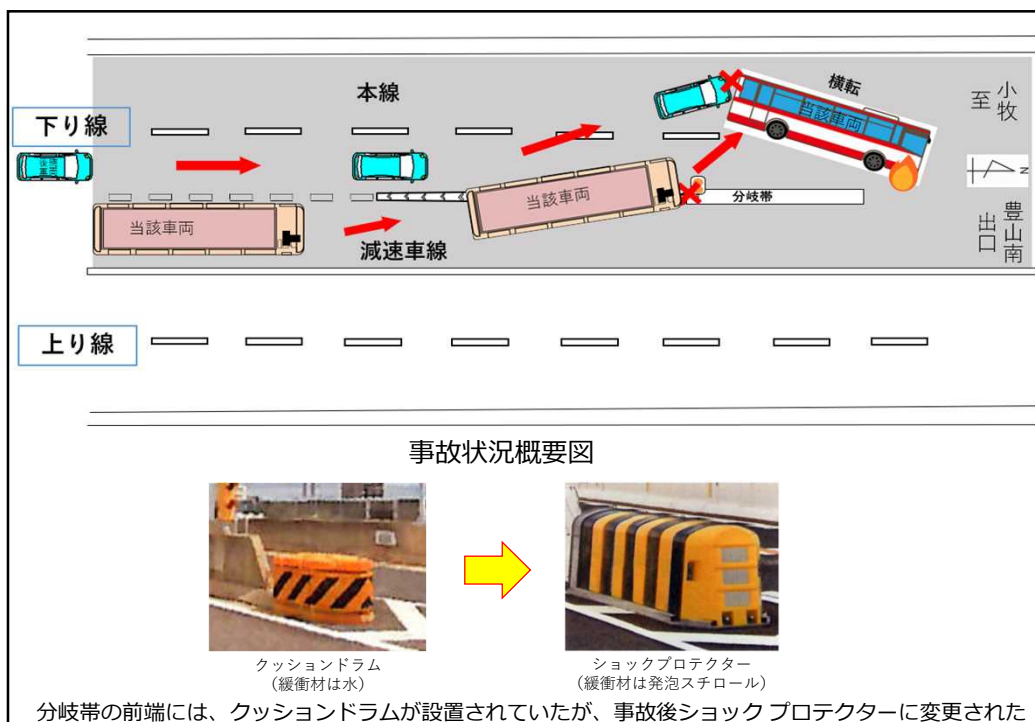
この事故により、大型乗合バスの運転者及び乗客1名が死亡し、乗客の1名が重傷、5名が軽傷を負った。また、小型乗用車の運転者が軽傷を負った。



横転炎上した大型バス



大型バスに衝突した小型乗用車



## 原因

### 運行中、一時的に意識レベルが低下し、適切な運転操作ができなくなった

事故は、大型乗合バスの運転者が睡眠時無呼吸症候群（SAS）であった可能性が高く、運行中に一時的に意識レベルが低下したのもこの影響と考えられる。

同運転者が事故地点に至るまで、車線境界線をまたぐふらつく走行や、加減速を繰り返しており、ブレーキ操作やハンドル操作を行うことなく事故地点の分岐帯に衝突していることから、居眠り運転であった可能性が考えられる。

事業者が運転者の適性診断の結果等を軽視し、SASの疑いが認められる者に対し、スクリーニング検査や個別指導を怠っていた。

## 原因

### 運転者（推定）

- ・当該運転者は、SASの恐れを自覚しているにもかかわらず、**事業者に相談したり、検査を受けることをしなかった**
- ・意識レベルが低下したにもかかわらず、**運行を継続した**
- ・乗客へのシートベルト着用案内が**不十分**であった

### 事業者・運行管理者等

- ・適性診断で「SASの恐れが非常に高い」と指摘されていることを**見逃し**、スクリーニング検査や治療を受けさせることがなかった
- ・事業者が作成する運転基準図において、**現場の速度制限を超えるものが複数あり、速度規制を超える速度による運転が誘発された可能性**があった

## 再発防止策

### 運行管理関係

- ・始業点呼時における運転者の**健康状態及び睡眠状態の確認の徹底**
- ・定期健康診断において、「要検査」等の所見が付された運転者に対する健康管理の徹底
- ・運転基準図は、現場の最高速度規制を厳守するものを作成
- ・**乗客にシートベルト着用を促すとともに、着用確認を行うよう運転者への指導の徹底**

### 事業者関係

- ・適性診断においてSASの恐れを指摘された運転者の把握に努め、**SASのおそれについて指摘を受けた運転者に対しては積極的にスクリーニング検査を受けさせる**

### 車両関係

- ・車両横転時の乗客の避難路の確保について、国土交通省及び自動車製作者は、諸外国の規制を参考とした**車両横転時における乗客の避難路の確保にかかる車両基準の導入について検討**するとともに、**使用過程車においても実施可能な避難路の確保策について調査及び検討**をすること



## 自動車運送事業者における睡眠時無呼吸症候群対策マニュアル

自動車運送事業者における睡眠時無呼吸症候群対策マニュアル（簡易版）  
（抜粋）

令和7年7月作成

### 自動車運送事業者における 睡眠時無呼吸症候群（SAS）対策マニュアル 【簡易版】

睡眠時無呼吸症候群（SAS）への対策を講じないと…

#### 事故の リスク

- ・SASでない人に比べて、SAS患者の交通事故のリスクは約2.4倍といわれています
- ・重症のSAS患者は、短期間に複数回の事故を引き起こすことが多いといわれています

睡眠時無呼吸症候群（SAS）が疑われる事故報告について…

#### 事故の 報告

- ・自動車事故報告書等の取扱要領の一部改正
- ・SASが関与する事故の発生状況を把握するため、SASが疑われる睡眠時無呼吸、過剰運転による事故を健康起因事故として報告するように通達改正（令和4年4月施行）

#### 受診状況 の報告

- ・発生した事故とSASとの関係性を把握するため、事故前後のSASスクリーニング検査の受診状況を報告するように通達改正（令和7年4月施行）

SASの「早期発見・早期治療」のためにスクリーニング検査★を！

\*2～3年に1回が目安

#### SASとは？

SASとは睡眠中に舌が喉の奥に沈下することにより気道が塞がれ、睡眠中に頻繁に呼吸がとまったり、止まりかけたりする状態（睡眠呼吸障害）のために質のよい睡眠が取れず、日中の強い眠気や疲労等の自覚症状をとる病気のことです。



【睡眠中に閉塞している上気道】

<代表的な症状>

- ・大きないびきをかく
- ・睡眠中に呼吸が苦しそう、息が止まっていると指摘される
- ・息が苦しくて目が覚める
- ・朝起きた時に頭痛・頭重感がある
- ・昼間に強い眠気を感じる

#### SASと疾病との関連性について



SASは、高血圧、脳・心臓疾患に起因する突然死や、健康起因事故を誘発します。また全身に影響を与える疾患であるため、糖尿病や、認知症等の合併症も指摘されています。

SASの放置は  
健康起因事故の主要原因に

SASにより脳への酸素供給が不足すると、頭痛や、集中力・記憶力等に影響が出て、動作遅延を招くなど、日常生活上のパフォーマンス低下を引き起こします。

#### SASスクリーニング検査とは

SASスクリーニング検査はSASの早期発見を目的に、確定診断のための精密検査が必要かどうかを判断するために行う簡易な検査です。

- ・医療機関に行かなくてもよい
- ・会社で検査機器を受け取れる
- ・検査機器をつけて寝るだけの簡単検査



代表的なスクリーニング検査手法  
【PWSオキシメトリ法】

#### SASスクリーニング検査の進め方

- ・運転者にはSASを正しく理解していただき、検査の必要性を伝えましょう。
- ・SASは適切な治療をすれば、運転業務が可能であることを周知しましょう。
- ・検査を始める前に社内規定を作成して、ルールを決めておきましょう。

社内規定の作成についてはマニュアルの「社内規定サンプル」を参考にしてください。

【検査対象者について】  
基本的に運転者全員を対象としますが、下記のようなリスクの高い人から優先的に受診させることも有効です。

- ・事故が多い
- ・ヒヤリハットが多い
- ・集中力が欠如している
- ・不規則勤務である
- ・長距離走行がある
- ・夜間勤務がある
- ・肥満である
- ・健診結果の異常所見が多い

【検査頻度について】  
2～3年に1回が目安ですが、経過観察の人や体重が急増した人は毎年受診することが推奨されます。

## 自動車運送事業者における睡眠時無呼吸症候群（SAS）対策マニュアルの概要

事業用自動車の運転者の健康起因事故の防止の取組みとして、国土交通省は平成15年3月に睡眠時無呼吸症候群（SAS）対策マニュアルを策定し、事業者が行うべき対応を示している。（[https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03manual/data/sas\\_manual.pdf](https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03manual/data/sas_manual.pdf)）

### 運転中の交通事故との関連が深い疾患との関連性が高い疾病

- 睡眠中に舌がのどの奥に沈下することにより気道が塞がれ、睡眠中に頻繁に呼吸がとまったり、止まりかけたりする状態（睡眠呼吸障害）のために質のよい睡眠がとれず、日中の強い眠気や疲労等の自覚症状を伴う病態
- 運転中に突然意識を失うような睡眠に陥ることもある
- 運動能力が低下する

#### SASと疾病との関連性

睡眠時無呼吸症候群を治療しないで放置すると…

- ・高血圧、糖尿病、不整脈、脳卒中、虚血性心疾患の危険性高  
→運転中の突然死にも繋がる健康起因事故の主要原因
- ・SASにより脳への酸素供給が不足することにより頭痛、集中力・記憶力に影響
- ・認知症やうつ病との関連も

SASの予防のためにも、バランスのとれた食事、運動、休養などを心がける指導することが重要  
生活習慣の見直しが予防につながります

★「睡眠時無呼吸症候群スクリーニング検査」を活用し、早期発見が事故防止につながります。



## 健康管理に関するマニュアル等

- ・ 事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル  
平成22年7月策定、平成26年4月改訂
- ・ 自動車運送事業者における睡眠時無呼吸症候群（SAS）対策マニュアル  
平成15年3月策定、平成19年6月及び平成27年8月改訂  
令和7年7月概要版作成等改良・更新
- ・ 自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドライン  
平成30年2月策定
- ・ 自動車運送事業者における心臓疾患・大血管疾患対策ガイドライン  
令和元年7月策定
- ・ 自動車運送事業者における視野障害対策マニュアル  
令和4年3月策定
- ・ 自動車運送事業者における飲酒運転防止マニュアル  
令和6年3月策定

## まとめ

- ・ 様々な原因により重大事故は現在も発生している
- ・ 運転者は、多様な状況の中で業務を行っている
- ・ 健康起因が関係する重大事故は心疾患や脳疾患、SASが原因による眠気などが多い
- ・ 改善基準告示に違反するような分かりやすい過労だけでなく、責任感やお客さまへのサービス精神で体調異常を申告しない運転者もいる
- ・ 定期健康診断の機会を捉え、既往病等の把握とともに日々の点呼のヒアリングにより運転者の健康状態を把握することが重要
- ・ 運行中止をためらわせない環境づくり（手順の周知）を社内で共有し、訓練等を実施するなど全社員に体感させることが必要

適切な健康管理、運行管理、点呼等での確認及び指導教育の徹底により、重大事故の防止に努めていただきたい



## 事業用自動車事故調査委員会の広報活動

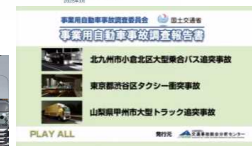
公表事案について、ポスター、マンガ、DVDの作成及び高速道路SA（PA）などで実施されるイベントへの参加など、運転者や運行管理者等に対する広報・啓発活動を行っています。



【ポスター】



【マンガ冊子】



【DVD】



【都営地下鉄内のつり革広告】



【高速道路SA（PA）でのイベント参加】

ご清聴ありがとうございました。